

## 「出題の意図」

選抜区分	平成 31 年度 （選抜区分：一般選抜・前期） 経済学部（科目名：英語）
出題の意図	<p>○出題の意図</p> <p>I</p> <p>出題文は、日本企業のグローバル化と <b>reshoring</b>（母国回帰）を論じた資料である。こうした英語の文章を読解するために必要な、単語力、基本的な文法の知識、内容の理解力など、基礎学力があるかどうかを判定することを意図した。</p> <p>問 1～問 3 は、英文を読み取り、内容を正しく理解しているかどうかを見るためのオーソドックスな設問である。</p> <p>問 4 では、該当する <b>government report</b> が 2014 年にリリースされているものの、その後の内容を読むと、2013 年が調査の最終年と説明されているので、それに対応する 4 年間であることを把握できているかどうかを問うた。内容に対する注意深い読解を試す設問である。</p> <p>また、問 5 は出題文中の <b>produce locally, cosume locally</b> を漢字四文字で解答させる設問であり、一般常識を試す設問である。</p> <p>II</p> <p>出題文は、アメリカでの児童の肥満問題と食生活の改善を論じた資料である。</p> <p>問 1 と問 2 は、英文を読み取り、内容を正しく理解しているかどうかを見るためのオーソドックスな設問である。</p> <p>問 3 は、カンマで区切られた 5 つの内容の中に、<b>or</b> が入っており、文が描いている料理の構成を文の構造から正しく理解できているかどうかを問うた。</p> <p>問 4 は接続詞を中心とした穴埋め（最も適切な語を入れる）の問題である。「最も適切な語」とは、単に文法的に、または、単語として間違いではないだけでなく、文章全体の流れを理解したうえで、論旨にとって一番ふさわしい語を選ぶということである。たとえば、最後の[ F ]では、その前段で、子どもに提供される料理は、食欲がわくように料理されている必要があることを説明している。著者の文意を読み取ることで、正解の語を見つけることができる。</p> <p>IIIとIV</p> <p>出典は黒田玲子『“当たり前”の後ろにあるもの』（III）、および、宮本みち子『若者が無縁化する—仕事・福祉・コミュニティでつなぐ』のなかの日本語である（IV）。</p>

経済学部のアドミッション・ポリシーでは、「文章を読み、その内容を分かりやすく的確に伝えることができる日本語と外国語の表現力を持っている」ことを能力として求めている。

そこで、ⅢとⅣの設問では、日本語の文を的確に英語で表現できるかどうかを見ることにした。すなわち、単語の選択が適切か、文法および文の構造が正しいかどうか、かつ、設問の文の内容に対応した英文となっているかが、ポイントである。

両設問とも、日本語がやや長めであるが、高校時代に学習する文法と単語で対応できる内容である。解答の際には、必要に応じて関係代名詞を正しく使い、基本的な構文を適用し、さらに、文意に則した単語を選びつつ、全体として設問の文章と内容がマッチしているように、英文を完成させることが、正解につながるものである。

#### ○答案の特徴

##### I

問1:「理由を2つ述べなさい」との設問に対して、実質1つの内容を2箇所にぼかして書いている答案が多くみられた。しかし、大意を理解できている答案が多く、意味不明な解答文は少なかった。

問2: 文の後半、**moving a production base** が主部であるのに、「生産拠点を移すこと」と正確に訳せていない答案が多かった。動名詞の知識・理解が大切である。

問3: 主に3つの理由を挙げる解答を想定していたが、2つないし1つの理由のみ解答しているものも散見された。出題文を全体的に理解したうえでの解答が必要な設問である。

問4: かなりの答案が正解できていた。

問5: 「地産地消」は、非常によく書けていた。「自給自足」や「地域開発」といった誤答もやや見受けられたが、非常に少なかった。利点の解答も比較的良くできていたが、解答文に主語や目的語がないものが多くみられた。英語の学力と同時に、日本語での表現力も必要である。

##### II

問1-1: 運動と健康的な食事の両方を解答できている答案が多かった。ただし、主語を「初の女性大統領」や「オバマ大統領」と書いている解答があった。**US First Lady** がアメリカの大統領夫人であることの一般常識が必要である。

問1-2: 通常の解釈では **in food served** は、**calories** と **the amount of salt and fat** の両方を修飾するが、後者のみを修飾する解釈をしている答案が多かった。また、**if** 節内の2つの動詞句 **reduce**～と **increase**～は等位接続されているにもかかわらず、後者を全く異なる箇所につなげている解答が見受けられた。さに、**salt** を「砂糖」「糖分」と

訳出したり、fat（脂肪）を「太った」「糖分」と訳出したりしている解答も見られた。基礎的な単語の知識が不可欠である。

問2：relaxing standards を「リラックスした～」「くつろいだ～」と訳している解答が散見されたが、「リラックスした基準」は内容的にも日本語としても、ありえない。文章全体の内容に則して読み取ることが大切である。また、argument を agriculture の意味でとらえているなど、文中の単語を似たような他の語と混同している解答があった。

問3：正解率が高かった。等位接続詞を用いて3つ以上の事柄をつなぐとき（A, B, C, and/or D など）のカンマの用法に注意すればよい設問である。

問4：正解率が広く分散していた。6個すべて正解した答えは、学部全体で2名であった。

### III

問題文の「当たり前」を take for granted と正当に書けているものが多かった。it is natural と書いていても間違いではない。しかし、it is nature との解答もあったが、これは、「母なる自然」という全く異なる意味になってしまうので、減点の対象となった。

### IV

受動態の英文が、文法的に正しくない解答があった。英語の基本的な構文を身につけることが大切である。問題文の「仲間」を friends ではなく mates と書いている答えがあったが、口語的な方言であり、減点の対象となった。